

HALLOWEEN PARTY 2012. 10. 31

TRICK OR TREAT !!!

10月31日(水)に大分芸術文化短期大学でハロウィンパーティーがありました!!!

Halloweenって何?

それぞれ、好きな仮装をして、お菓子や食べ物を持参し、ハロウィンパーティーが始まりました!!

わたしたちフランスサークルのメンバーも仮装をしました! 社会人も子どもたちも先生も皆仮装しました。マイケル・ジャクソンも“Back From The Dead”いましたよ!



フランスサークルでは、一生懸命作ったハロウィンパーティーの飾りをつけたり、準備しました。



メンバーそれぞれイギリスやアメリカ、フランスを担当し、各国のハロウィンについても、調べてみました。

Jack 'O Lantern の伝説を知ってる?

万聖節の前夜 10月31日はケルト人の一年の終日で精霊や鬼女が出てくるといいます。ジャックという嘘つきで怠け者の鍛冶屋が酒場で飲んだくれていた。お金が貯りなくなって酒代を何とかしてくれるよう精霊へ願いを込めた。そして、精霊へ人生最後の飲み物と引き換えに魂をあげる約束を唱えたという。精霊は6ペンスコインに変身して酒代の支払いをしようとしていた。狡賢いジャックは銀の十字架でコインを押さえつけ、精霊が元に戻れないように財布に押し込んだ。元の姿に戻れずに10年間はジャックの魂を取りに来ないことを約束した。10年間後、ジャックは田舎道を歩いていると悪魔に出会いました。精霊の約束期限が切れたので、魔界からジャックの魂を取りに来たという。「この木の上に登ってリンゴを取ってきておくれよ」ジャックは言いました。優しい悪魔がこれがジャックにと

って最後と思い、リンゴを取りに木に登りました。するとジャックは木に十字架を刻み込み悪魔は木から下いられなくなってしまい、二度と彼の魂を取らないと約束しました。それから月日は流れジャックは死にました。今まで散々な行いをしてきたため天国への門は開けてもらえません。仕方なく地獄へ行くことにしましたが、悪魔はジャックの魂を取らないという約束を覚えていました。「いったいおれはどこへ行けばいいんだ？」とジャック。「元来たところに帰るんだね」と悪魔。その夜は真っ暗で風が強かった。ジャックは光をくれないかとお願ひ唱えた。悪魔はジャックに地獄の炎の残り火を投げた。ジャックは大好きだったカズをくみぬいて炎をその中に大切に入れた。これで、炎が風にかき消されてしまうことはありません。ジャックは灯火を手に、今も永遠に彷徨い続けている。この話アメリカに伝わった「カズのランタン」は、移民したアイランド人によりアメリカでの生産が高かったかぼちゃのランタンに変化した。毎年ハロウィンの日に作るかぼちゃのロウソク立てジャックランタンと呼び、善霊を引き寄せ、悪霊たちを遠ざける効果があると言われている。

フランスにはハロウィンがあるかしら？

いいえ。フランスでは11月1日にラ・トゥサン「La Toussaint」があります。日本語で諸聖人の祝日・万聖節という意味です。実は欧米のハロウィンより日本のお盆に似ている。カトリック教会の祝日で、黒い服をきて、お墓に参って掃除をしたり、亡くなった親戚のために花をささげたいする。花は菊です。その日を静かに過ごしている。

イギリスでは？

イギリスではハロウィンより「Guy Fawkes' Day」という11月5日の方が盛んです。11月5日が近付くと、子どもたちはほろ布などでガイ・フォークス人形を作り、「Penny for the Guy!」「外のために小銭を！」と通行人にねだります。最近ではハロウィンとごちゃまぜになり、「Trick or Treat!」と言って家々をまわり、お菓子や小銭を集める子供もいるそうです。この行事が終わると長い冬へ突入すると言われています。

今まで他の国のハロウィンについて知らなかったのでもいい機会です、よかったです。

ハロウィンパーティーに参加した人たちは、初対面の方も多く、いろいろな方々と交流することもでき、とても楽しいハロウィンパーティーとなりました！



10月31日(水)に開催したハロウィンパーティーは皆様のご協力のおかげで無事終わることができました。ありがとうございました。

ちびっこから社会人の方まで、国籍も様々な多くの方の個性溢れる仮装、手料理、お菓子、そして交流によって楽しい時間を過ごすことができました。日本語に英語を交えながら国籍や年齢の違う人と話すことができたことは貴重な経験となりました。みなさんにとっても思い出に残るような時間となっていればとても嬉しく思います。

